

## 水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 24 年 11 月 24 日に開催した「平成 24 年度桂川・相模川流域協議会流域シンポジウム／水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」の内容は次のとおりでした。

名 称	平成 24 年度桂川・相模川流域協議会流域シンポジウム／水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム		
テーマ	川の声聞こうよ 桂川～相模川 ー絶滅危惧種 カワラノギクノ保全ー ー山梨・神奈川県が共同して行う水源環境の保全・再生ー		
開催日時	平成 24 年 11 月 24 日(土) 13:00～17:00		
開催場所	相模女子大学 3号館 314 教室		
出席者	天野望（主催者あいさつ・パネリスト）、浅枝隆（パネリスト）、木平勇吉（パネリスト）、久保重明、井伊秀博、片山幸男、五十嵐淳一、坂井マズミ、井上貞子（以上、県民フォーラムチーム）		
参加者	268 名	意見数	34 件
内 容	<p><b>1-1. 主催者あいさつ 桂川・相模川流域協議会 代表幹事 倉橋満知子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○流域シンポジウムは、毎回、桂川・相模川が抱える課題や問題をテーマにしまして、本日で 15 回目となりました。今回は水源環境保全再生県民フォーラムと共同開催ということで、多数ご参加いただいた。</li> <li>○流域協議会は、シンポジウムで皆さんに問題提起をし、解決や対策へ向けて行動することを行ってきた。</li> <li>○今回は、相模川の河原や河川敷の植生変化や生態の危機を調査し、保全に取り組んできたことを踏まえ、次なる行動を皆さんに提案したい。テーマで「川の声聞こうよ 桂川～相模川」、今日はカワラノギクの声が皆さんに届くことを願う。</li> </ul> <p><b>1-2. 主催者あいさつ 水源環境保全・再生かながわ県民会議 副座長 天野望</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○神奈川県では、平成 9 年度から「水源の森林づくり事業」に取り組み、平成 19 年度以降は、県民の皆様から、個人県民税の超過課税、いわゆる「水源環境保全税」をご負担いただいて、水源環境の保全・再生に計画的に取り組んでいる。</li> <li>○県民会議は、この水源環境保全税を財源として進められる事業が効果的に実施されているかを点検・評価するとともに、本日のような県民フォーラムの開催などを通じて、事業の状況を県民の皆様へ情報提供していくことを目的として設置された組織である。</li> <li>○今回のフォーラムは、桂川・相模川流域協議会と共同して開催するもので、桂川・相模川流域の水源環境を山梨・神奈川の両県で守ることの必要性や重要性について考えていく。</li> </ul> <p><b>2. 【第 1 部】基調講演「生物多様性を考える」</b> <b>東京大学名誉教授 養老孟司</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生物多様性という言葉がなぜ必要で、それを言っている人間の側、あるいは言われている社会の側から見て、それは一体何なのだろうという話を申し上げたい。</li> <li>○人間の意識が持った最も強い機能の 1 つは、同じにするという働き。感覚はいちいち違うというのに、意識は同じにする。動物は多分同じにしない。感覚が優先する。</li> <li>○昆虫などは 3000 万種あるとか言っているが、それを皆さんが言葉にするときは「虫」という一言。乱暴なだけけれども、意識がそれだけ乱暴なことをしていても、皆さん何とも思っていない。なぜかといったら、意識が一番偉いと思っているから。でも、素直に感覚に従うと、生き物は皆違う。</li> <li>○現代社会とか近代とか言われるものは、意識がどんどん優先していく社会だから、ものが同じになってくる。どこに行ってもコーヒーを飲もうと思うと同じコーヒーショップになってきて、途上国に近いから、そこのコーヒーショップのコーヒーも安いだろうと思うと、値段まで同じ。世界というのは、そうやって同じになっている。それを国際化とか言っているわけで、それを進歩とか文明とか呼ぶ。</li> <li>○いわゆる環境問題とか生物多様性という言葉が出てくる背景そのものが、このような問題にあると私は思っている。人間は意識中心ですから、やはり考えるのは意識なので、一番偉いのはおれだと思っている。</li> <li>○生き物は全体としてつながっていますよ（生態系）という話があります。でも人間というのは、できるだけつながらない格好で生き物を利用することをしてきた。生き物というのは、お互い同士がつながっているのです。それを人間が切っている。</li> <li>○自然というのはいいものだという誤解。自然というのは、いいも悪いも関係ない、中立である。自然の良さというのは、そこにある。良いから森に行くのではなくて、森に行く人間世界がいかによがんでいるかがわかる。</li> </ul>		



養老孟司氏

### 3. 【第2部】カワラノギクの保全活動報告

テーマ：「相模川にカワラノギクを復活させよう！」

#### ①報告（映像）タイトル「相模川のカワラノギクをたずねて」

桂川・相模川流域協議会流域によるカワラノギクの保全活動について、DVDによる報告が行われた。

#### ②カワラノギクの保全について 相模原市立博物館 秋山幸也氏

○河床の安定による草地化、他の植物が生えている、河川敷の整地利用、車両の進入による立地の荒廃、それから外来植物（コセンダングサなど）が覆ってしまう、そのような複数の原因が合わさって、カワラノギクは絶滅危惧植物になってしまった。

○今私たちがやるべきことは、群落の広さと数が十分に回復するまでは人間が手を掛けて生育していく。他の植物を抜き取っても、カワラノギクだけの群落をつくっていくことだと思う。カワラノギクの保全地を維持するのは大変である。河原は砂漠のような厳しい環境である。真夏の暑いときに草刈をしたり、水やりをしたり、種まきをしたり、一番寒い寒風吹きすさぶ中で種取りをしなければいけない。

○河川管理者（県・国土交通省）などと地域が協力して、さらに保全作業に協力してくれる仲間をふやしていく必要がある。



秋山幸也氏

#### ③提案（みんなのできること）

カワラノギクの保全活動を行っている4団体（カワラノギクを守る会、NPO 法人愛・ふるさと、相模川湘南地域協議会、さがみはら地域協議会）から課題についての報告の後、カワラノギク保全活動への参加の呼びかけが行われた。

##### 【課題についての報告】

○カワラノギクを守る会の会員は、現在は36名であり、高齢化が進み、若い人が入らない。ボランティアをいかに広げていくかということが一番の課題。

○ボランティアだけでは限界があり、行政も協力して一緒にやっていくということが大事。

○私どもが寒川の河川敷でカワラノギクを始めようとしたのは、昨年の5月。2年前に桂川・相模川流域協議会は、環境調査として相模川流域にシナダレスズメガヤという外来種がどのように繁茂しているかという調査事業を行った。寒川の河川敷は、流域の中でも最も広い繁茂した場所になっていた。

○シナダレスズメガヤという外来種を駆除しないことには幾ら頑張っても下流域では玉石河原は望んでも出ない。これから私たちは、カワラノギクの再生と同時に、シナダレスズメガヤを駆除して、本来の河原をつくり上げていきたい。

##### 【参加の呼びかけ】

○相模川の河原は元の姿ではなくなっているため、カワラノギクの保全活動は非常に厳しい状態にあります。このため、1月のカワラノギクの種採り、3月の種まき、5月から9月にかけての草刈など人の手をかけないと保全することができません。この活動は、単にカワラノギクを保全するだけでなく、河原全体、河原の生態系の保全につながる活動でありますので、皆様のご協力をお願いいたします。



4団体による活動報告

### 4. 【第3部】パネルディスカッション

テーマ：「山梨・神奈川県が共同して行う水源環境の保全・再生」

パネリスト 天野 望氏（旧津久井町長）  
浅枝 隆氏（埼玉大学大学院理工学研究科教授）  
木平 勇吉氏（東京農工大学名誉教授）  
長江 良明氏（山梨県森林環境部技監、森林整備課長）

進行 田崎 日加理氏（フリーアナウンサー）

①水源環境保全課今部課長より、資料を用いて、神奈川県の水源環境保全・再生の取り組みについて説明を行った。

②山梨県森林環境総務課大堀課長より、資料を用いて、山梨県の森林環境税による取り組みについて説明を行った。

③アンケートの設問に沿ってパネルディスカッションが行われた。